

坪井信良 しんりょう 蘭方醫。文政八年八月二十八日越中國高岡生れ、明治三十七年十一月九日歿（八二五一一九〇四）。諱良益、字信良、通稱末三郎。號終里。佐渡養順の次男、坪井信道の婿養子。信道、小石元瑞、緒方洪庵等の學ぶ。嘉永六年福井藩主松平慶永の侍醫となり、濟世館醫學所、明道館洋書館白學所教授を務めた。安政四年江戸に移り蕃書調所教授補い、また英醫師として竹内玄同等と徳川家定の病床に侍した。維新後、東京府病院長等。人類學者坪井正五郎の父。

譯書に、歌禪貌廉涅兒著『新藥百品考』前篇一冊、後篇一冊（慶應二年初夏、初白樓藏洋、英蘭堂發兌）がある他、著譯書多敷。